

ほのか診察室

HONOKA Consultation room



シリーズ

第91話

胃がん ～早期発見のために～



市民病院
消化器科・外科診療部長
兼手術・内視鏡診療部長
金子 猛 監修

胃 がんは日本人に最も多いがんの一つと言われています。2010年の統計データでは、がんの部位別罹患患者数（1年間に新しくがんと診断された数）で、胃がんが第1位となっています。

●胃がんとは・・・

胃がんは、胃の粘膜内の細胞が何らかの刺激や原因でがん細胞となることで発生します。主な症状には、胃の痛み、不快感、違和感、胸やけ、

吐き気、食欲不振といったものがありますが、どれも胃がん特有の症状ではありません。特に胃炎、胃潰瘍の症状と似ているため、胃がんと気が付かずにがんが進行してしまうことがあります。また、早期胃がんの多くは無症状で、X線造影検査や内視鏡検査で偶然に発見されることが多い病気でもあります。発見が遅れ、がんが進行すると、がん細胞が胃壁の中にあるリンパ管や血管に入り込んで、リンパ節や、肝臓・肺など離

れた臓器に広がる可能性があります。これを転移と呼び、胃がんにはリンパ行性転移（リンパ節に転移）、血行性転移（血液に乗って肺や肝臓に転移）、腹膜播種性転移（がんが胃の一番外側の膜を破ってお腹の中に広がる）の3種類があります。転移してからの治療は、患者さんの負担やリスクが大きくなってしまいます。

●早期発見、予防のために・・・

胃がんは内視鏡検査によって見つけることができます。内視鏡検査とは、先端に超小型カメラの付いた管を口から挿入し、胃の中を観察することができ、胃の粘膜を直接観察することができるので、早期にがんを見ることができ、内視鏡が細くなることで検査しやすい経鼻内視鏡が増えましたが、鼻から入れることに抵抗がある方は、口から入れることも可能です。

胃がんが発生する原因については、多くの研究が行われ、いくつかのリスク要因が指摘されています。先月号の「胃潰瘍」の話にも出てきましたが、ヘリコバクター・ピロリという細菌は胃の中に住み着き、胃の粘膜を傷つける働きをするため、胃潰

瘍だけでなく、胃がんの原因にもなります。また、ストレスや喫煙といった生活習慣に強く依存していることが報告されていますが、中でも最も大きな関わりを持つているのは「食生活」だと考えられています。塩分の多い食事、熱すぎる料理などは胃の粘膜に刺激を与えて傷が付きやすくなります。魚や肉の焼け焦げにも発がん性物質が含まれているため、なるべく避けた方が良いでしょう。食事は毎日欠かさない生活の一部ですので、特に注意が必要です。

日本人に多く見られる胃がんは、早期発見でほとんど治すことができます。病気になるにつつあります。検査法・治療法の向上により、定期的な検診を受け、適切な処置を行えば、過度に恐れる病気ではありません。しかし、食事やストレスなど日常生活に密接な関係があるため、日常生活の見直しを図り、胃をいたわることが大切です。そして何より、早期発見のために、定期的な検診を積極的に受けられることをお勧めします。